



写真等無断転載禁止

2021. 11. 10 発行 ニュースレター第291号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

千葉市長とのティーミーティング報告

NPO法人 ちば環境情報センター代表 小西 由希子

2021年10月6日 10:30~11:20、千葉市役所にて千葉市長 神谷俊一さんとのミーティング（ティーミーティング）にちば環境情報センター会員7名で参加し、環境問題や環境行政に関する意見交換を行いましたので報告いたします。

参加者：網代春男、伊勢戸将司、小田信治、小西由希子、佐藤遥、高橋久美子、田中正彦

(1) 自己紹介

自己紹介の後、会の活動紹介を行った。会の活動のうち、きょうは特に谷津田の保全に関わる仲間が参加していること、網代さんと小田さんからそれぞれのテーマで具体的なお話をしたい旨伝えた。

(2) 話題

① 網代春男さんより

谷津田の自然への脅威として、人為的環境の改変と外来種による在来種への圧力があること、市としてその対応に具合的に取り組んでほしい旨お話しした。イノシシによる畔被害の状況などの資料も合わせて手渡した。（次ページの「ティーミーティングで話した内容」参照）

② 小田信治さんより

令和3年5月26日、参院で可決された改正地球温暖化対策推進法では、自治体に再生可能エネルギーの導入目標の設定と開示を義務づけ、促進区域を指定し、優良事業を認定する制度の創設が求められている。千葉市として促進地域をどのように指定していくのか、緑の質を見極め土地利用計画を作って谷津田保全区域は除外してほしい旨お話しした。

(3) 環境政策（行政）全般について

① 環境保全課で自然保護を担当する職員に専門家がいないこと、職員募集で生きものの専門家を採用していないことについて、今後検討していただくようお話しした。

② 市全体としてこれまであまり力を入れられてこなかった環境行政に本腰を入れて対応していただきたい旨お話しした。最後に、是非下大和田谷津田においてくださいとお誘いした。



感想（参加したメンバーから）

- ・ 短時間（ティーミーティングは50分ですが、40分経過した後、写真撮影となる）でしたが、市長も話を良く聞いてくださりお会いした意義があったと思います。今度下大和田に来てもらいましょう。
- ・ 会が地道に長年取り組んできた事が市の長まで届いた記念すべき日だと思います。私達だけでなく県内の同じ志を持つグループがつながって大きな声になって行く事を願って止みません。
- ・ 自然環境にはあまり興味を持ってもらえないかなど半分はあきらめていましたが、一つ一つの話題に丁寧に耳を傾け、話を聞いてくださいましたし、市長さんからも真剣に話をしてくださいました。

<今後の展望と提案>

神谷市長にお渡しした当会の活動紹介シートで、以下のことをお伝えしました。

2015年度の「谷津田の保全と活用の推進事業」見直しで、当地区は優先区域として設定されました。しかし周辺には太陽光発電施設やヘリポートが建設されるなど開発圧があり、将来に向けて確実に保全が担保されることが求められます。当会でもトラスト制度（寄付を集めて土地を購入する）の導入の検討をおこなっていますが、特別緑地保全地区指定の検討をするなど、市としても保全に向けたさらなる取り組みを提案します。

ティーミーティングで話した内容

ここは環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。

私どもの会は選定地だからそれを守ろうという事ではなく選定の15年も前からこの地域の自然環境に惚れ込み、この谷津をなんとか守ろうという事で活動してきました。その成果が環境省の指定に結びついたと自負しています。会の人たちは奥ゆかしくそうしたことを口に出す人はいないのですが私は大いに自負しています。

指定を受けるような素晴らしい環境にあります。将来に向けてそれを維持するに当たっては二つの脅威を感じています。

一つは人為的環境の改変です。

もう一つは外来種による在来種への圧力です。

今まではなんとか私どものグループだけの活動で維持してきましたが、今、お話しした二つの脅威は私どもの努力ではいかんともしがたく環境の劣化を防ぐことができなくなります。

まず1点目ですがこの地域を航空写真で見ると千葉市内で一番緑が濃く残っておりこれだけの森林の塊はないとの日本自然保護協会の方のお話でした。鹿島川上流部の水源涵養林にもなっています。水環境においてもこの地域の重要性をみんなに認識してほしいと思っています。

谷津の谷が産業廃棄物や残土の埋め立てに利用されることを恐れています。わたしどもの活動地域のすぐ上の台地の森林が払われ、ソーラーパネルが並びヘリポートまで作られました。毎年やってきていた夏鳥のサシバは来なくなりました。

緑地の保全にお力をいただきたいと願っています。

2点目は在来生物に与える外来生物の圧力があります。具体的にいえばアライグマとウシガエル、アカミミガメ、アメリカザリガニへの対応があります。そのほか困りものにはイノシシやハクビシンなどもいます。

アライグマは市の環境保全課からわなを借用して仕掛けるのですが、借用希望者が多いようで、申し込みして順番待ちになります。例えば8月18日に1頭捕らえました。この時赤外線カメラには4頭のアライグマが写っていました。

引き続き借用を申し込んだのですが35人待ちとのことで9月28日にやっと貸与され、すぐ仕掛け、29日に捕獲したという状況です。また貸与をお願いしていますがまだ貸し出しを受けていません。来年度はわなを増やすとは伺っていますが抜本的な対応を考えていただきたいと思っています。

わなそのものも市が県から借用を受けている形になっているようです。私どものように環境保全のための貸与は出来ないことになっているからオー

千葉市緑区 網代 春男

プンにしないでほしい、写真を撮るときはバックに小屋とかを入れて撮ってくれとまで言われています。さすがに今の担当の方からはそういうのはありませんが。農業被害、家屋被害での対応しか取られていないのが現状のようです。それも農業被害は農政センターの所管、家屋被害は環境保全課所管です。

特定外来生物というのは生態系に与える影響が大きいことから指定されているのに本来の観点からの対策がないのです。



神谷俊一千葉市長(左から3番目)と記念写真

生きものたちのために活動をしているのに特定外来生物とはいえ命を奪わなくてはならないつらさや、罪悪感は大いなものがあります。この谷津の昆虫なども記録していますが種を同定するために捕らえて持ち帰って調べるという事はしていません。虫といえども命を奪うことはしたくないと思っていますからです。哺乳動物となるとなおさらです。アライグマに罪はありません。一生懸命生きているだけです。抜本的な対策がなく、さみだれのな駆除では延々と罪のない命を生み、奪うという、不毛な行為を続けなければなりません。

ウシガエルにしても然りです。生息域を徹底的に潰す対策を講じていただきたいと思っています。捕獲して、相談したときに、明確などうしろという指示も出来ないような行政であっては困ります。

アカミミガメについても環境に与える被害は他の特定外来生物以上とも言われていますが、扱いを相談しても特定外来生物ではないから何もしていないという事で明確な対応を示していただけませんでした。

これは今日のテーマではありませんが蘇我の粉塵の問題は何も進展を見せず、水俣病そのものの企業と行政の立ち位置のように見えます。

市には環境局環境保全部環境保全課という立派な専門部署がおありです。自然保護対策室という名称の組織も置いておられます。

業務は多義に亘るものと思いますが、私どもの活

動から環境保全行政を見たときただ名ばかりの組織にしか見えないのは残念な事です。組織の名称そのものの活動が出来る存在に市長のお力でしていただきたいと願っています。

私たちと接している担当の方々はそれなりに一生懸命努力されています。

過去上層部の方が環境行政に目を向けてこなかった付けが現れているように見えます。専門性を持った人材の育成、配置、適正な予算配分が必要と考えます。これからは何をやるにも環境の問題がついて回る時代です。環境行政に期待しています。

(写真撮影: 田中正彦)

意外と知らないカタツムリの謎 その15

—カタツムリの歩き方 ヌルヌル粘液— 粘液を区別し寄生相手を決めるダニ?

千葉県立若松高等学校 四街道市 入村 信博

① カタツムリの歩き方の謎

カタツムリが生活する環境は平らな道ばかりではありません。コンクリートのでこぼこ道もあれば、枝から枝へ渡ることもあります。鋭利な包丁の上もなんなく移動する特技も持ち合わせています(右図1)。



図1 鋭利な包丁の刃の上も大丈夫?

カタツムリの歩き方(歩行)については意外と分からない部分が多く動物学者

を悩ませてきました。カタツムリを透明なガラス板に乗せて、移動の様子を裏側から観察すると、カタツムリの後ろから前に向かって、暗い帯のようなものが動いている様子を見ることができます。この帯状の模様を「足波(そくは)」といい、この「足波」の部分で筋肉を伸び縮みさせ、それを利用して前進していると言われています。

② 粘液でからだを固定する

しかし、からだ全体がただ伸び縮みするだけでは、前進することはできません。地面につかまりながら伸び縮みしなければなりません。明治大学の岩本真祐子先生の研究によると、カタツムリの分泌するネバネバ、つまり粘液が関わっているのではないかと考えています。カタツムリの這った跡を注意してみるとネバネバの粘液を見つけることができます(図2)。カタツムリの分泌する粘液には面白い性質があると言う事です。粘液への力の加わり方により、硬い固体のようになり、粘りの有る液体のようになり、瞬間的に状態が変化するので。カタツムリ



図2 這った後の残る粘液

もし1mmにも満たないダニがカタツムリの粘液を区別していると上図3のような結果が予想されます。結果が楽しみです。

はこの粘液の性質を利用して一部を固体のように地面に密着させつつ、一部は液体のようにからだを滑らせているというのです。カタツムリの這った跡を見ると、虹色に光る膜が残っていることがありますが、これが粘液です。

③ 房総半島のカタツムリダニはガラスの表面を移動するのか?(ダニは宿主探しに粘液を使っているのか?)

カタツムリの仲間の粘液についての生態学的な研究もされています。外国の巻き貝の仲間では、この粘液が帰巢行動(巣に帰る行動)や繁殖行動に関係しているという報告もされています(Terence P. T. et al. Biol.

Reviews 2013)。私が記載した「ニュームラカタツムリダニ」において粘液は重要な役割をしていると予想されます。ヨーロッパで報告されているカタツムリダニ(*Riccardoell*属)では、寄生するカタツムリの粘液を区別し、ダニはその粘液を餌としていると言われています(Baker R. A. J. Nat. Hist. 1970)。今、考えている実験は粘液を塗ったガラスの上に野外ではコハクオナジマイマイのみに寄生している(特異性が有るダニ)が室内でも人工的に塗られた粘液を区別し、コハクオナジマイマイにたどり着けるかというものです。

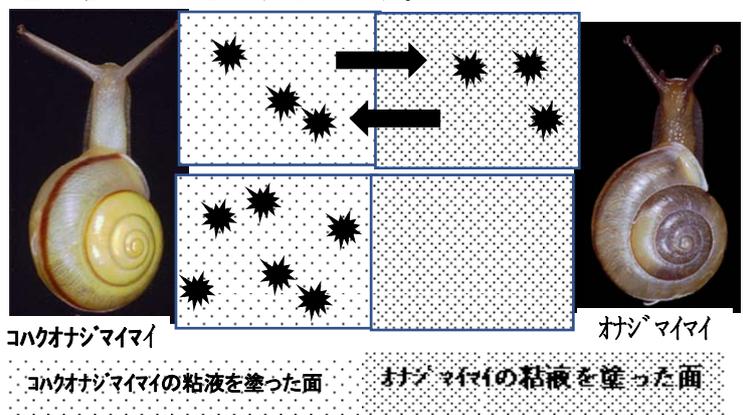


図3. ダニは粘液を区別できる?

もし1mmにも満たないダニがカタツムリの粘液を区別していると上図3のような結果が予想されます。結果が楽しみです。(連載終了)

新浜の話45 ～池ができた！～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子



つやまおまきこウエブサイト

21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

この稿を書きはじめたのは、2021年8月28日。厳しい酷暑の中、パラリンピックが佳境に達し、未だに爆発的な感染拡大が続くコロナ禍の日々。過去のできごと中心の「新浜の話」、ご隠居さんとして自由に使える時間のおかげで、締切のはるか前に余裕を持って書き出せるのはありがたいです。

ちなみに、原稿提出は2か月後の10月30日。気温が乱高下の後に一挙に低下し、コタツやヒーターのご厄介になる陽気。ありがたいことに、目下新型コロナ禍は収束の一途か、小康状態か。

カレンダーで確かめてみました。今から34年前、1987年8月28日は、行徳野鳥観察舎友の会が行徳鳥獣保護区の中に、トヨタ財団研究コンクールで得た500万円の助成金で、面積1ヘクタールに近い新しい池を造成し、丸浜川からポンプで水を入れ始めた、まさにその日にあたります。

造成工事着工が何日だったかは、さすがに思い出せません。曙建設の蕪木さんに工事をお願いし、オペレーターの黒沢さんは大型ブルドーザーを操って、夏休み中の中学生の息子さんを助手に、保護区の中で、着々と浅い池の造成を進められ、すみずみまで実にていねいに仕事をされていました。たしか造成開始から3週間ほどで、2面合わせてほしい100m四方の池がきれいに仕上がっていました。

その間、友の会の面々はせっせとポンプやパイプの敷設。電源設置はプロの電気屋さんをお願いしましたが、仕上げ工事のあれこれはほとんど自分たちの手で。ポンプのスイッチを入れる直前まで、パイプの継ぎ目ははずれを直していたのではなかったかな。夏の日差しにさらされた塩ビパイプは気温が下がれば縮んで、朝にはどこかがずれてはずれてしまうのです。水が通るようになってからは温度が安定してはずれも少なくなりましたが、最終的には浅く土をかけて埋めました。

乾ききった土がむき出しになった、造成されたばかりの新しい池。突き出た筒口のところにみんな集まって、動き出したポンプから水が送られてくる瞬間を待ちました。筒口からふうーっ、ふうーっと熱い空気が吹き出されてきます。やがて、ごぼごぼっ、と鈍い音とともに、まっ黒な水がふきだしました。どぶ泥の臭気が漂います。水はいったん途切れ、やがて連続してざあざあと流れ始めました。

乾いた土の上にもうす黒い水たまりがじわじわと広がって行きます。こどもたちは歓声を上げて広がる水の先端を追いかけ、笹舟を浮かべたり、土くれを落とすくずれるのを眺めたり、大はしゃぎ。大人も同様にはしゃいでいました。

どす黒い水は、10mほど進んだ先端ではきれいに澄んできました。水面が広がるにつれてどこからともなくトンボが集まってきて、水のすぐ上を飛び交い、中には早くも尾端で水を打って産卵をはじめた様子のものでいました。

上池ぜんたいに水が回るのにはたしかまる1日以上かかったかと思います。3日ほどたつと下池も水におおわれ、砂漠のようだった造成地には、見るからにおだやかな水辺の光景が出現していました。

1週間経つか経たないうちに、土中の地下茎からアシが芽吹いてきました。芽生えて間もないアシが水面に影をうつし、緑の葉先が風に揺れる様子。なんと清々しく、心地よかったです。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2021年12月号(第292号)の発送を12月8日(水)10時から千葉市民活動支援センター会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

編集後記: 来年のカレンダー「下大和田谷津田ごよみ 2022」ができました。会員の皆様にはこのニュースレターに同封いたしましたのでご覧ください。掲載された写真は、全て私たちが下大和田の谷津田で、その季節に撮影したものです。当会のイベント実施日が掲載されていますので、ご都合のつく時はご参加ください。追加でカレンダーご希望の方はご連絡ください。 mud-skipper

に本当にうれしそうにニコニコと笑顔が沢山こぼれました。心配をよそに、大事無く、全ての稲を刈り取ることが出来ました。収穫が豊作だった去年より多そうで、楽しみです。

○ 10月期の活動、稲刈り脱穀と順調に進行収穫量は多いかも？！

台風などの来襲が頻発した過去を教訓に、重さを増して行く稲穂が水没する前に順序良く刈っていく工夫をしました。おだも沢山立てで、脱穀前に次々干しました。コシヒカリ、黒米、赤米、緑米の順で刈り進め、23日には全ての稲刈りを完了しました。なお、10月6日からコシヒカリの脱穀を開始しましたが、小山 YPP の稲も例年に増して豊作の様で、全体の収穫量がどの程度か楽しみです。

【谷津田・季節のたより】

下大和田町

報告：網代春男

10月 8日 シイタケがなぜか2本のほだ木だけに出る。夏の暑さで枯れたのか気がかり。
今年は林内に出るキノコも極めて少ない。

10月23日 イノシシ5頭が赤外線カメラに写っていた。畦だけでなく稲刈り直前のマイ田んぼの一部や黒米田も荒らされた。

小山町

報告：たんぼぼ

10月2日～14日 暑さが戻りました。この期間、ツクツクボウシとコオロギの音が響く中、7日にはチョウトンボも観察されました。ニホンアマガエルさんもおだの竹の中で合唱に参加です。

【イベントのお知らせ】

緊急事態宣言が解除されたので、各種イベントへの一般参加を再開しました。「新型コロナウイルスによる感染防止のためのお約束」を守って、活動にご参加ください。

連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

- ご注意
- ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。
 - ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
 - ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加くだ、基本的に自己責任をお願いします。

<下大和田谷津田>

・第271回 下大和田 Y P P 「粃すり」

日時：2021年11月20日（土） 9時45分～15時 小雨決行

場所：下大和田 伊勢戸銘木店（中野インター入り口近く）。参加者へは別途場所をお知らせします。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費：米づくり年間参加者以外 300円（小学生以上）

・森と水辺の手入れ

日時：2021年11月21日（日） 9時45分～12時 雨天中止 竹切りの好季、竹を切り出します。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物。

参加費：無料

・第263回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時：2021年12月 5日（日） 9時45分～12時 雨天決行

持ち物：マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：100円（小学生以上）

<小山町谷津田>

・第198回 小山町 Y P P 「粃摺り作業」

今年収穫したお米を、もみすり機を使って玄米にします。

日時：2021年11月27日（土） 8時30分～ ☆小雨決行

場所：土気 NGO・古民家

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

ご意見・ご希望等ある方は、tomizo_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

